

令和元年度 第3回文京区アカデミー推進協議会 会議録（全文）

日時	令和2年1月20日（月）午後6時30分～午後8時40分
会場	区議会第一委員会室
出席	委員：山田徹雄委員◎、田中雅文委員○、青木和浩委員、増田純委員、片貝憲二委員、牧野恒良委員、高澤芳郎委員、白井圭子委員、関誠委員、佃吉一委員、山内豊委員、今井瑛里子委員（◎会長、○副会長） 幹事：小野光幸アカデミー推進部長、細矢剛史アカデミー推進部アカデミー推進課長、鈴木大助アカデミー推進部観光・都市交流担当課長、川崎慎一郎アカデミー推進部スポーツ振興課長、日比谷光輝アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長、内藤剛一教育推進部真砂中央図書館長事務局（12名）、事業者（2名）
欠席	井上充代委員、酒井宏委員、宮内秀和委員、堀正孝委員、高橋由貴子委員、小島えりか委員
資料	資料1 令和元年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（案） 資料2 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の結果について 資料2-1 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査報告書【概要版】 資料2-2 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査報告書

会議内容

1 開会

山田会長 こんばんは。時間となりましたので、第3回文京区アカデミー推進協議会を始めさせていただきます。初めに委員の出欠状況および配付資料等について、事務局より説明をお願いします。

細矢課長 皆さま、こんばんは。それでは、私から委員の出欠状況を報告します。着座にて失礼します。欠席者は、酒井委員、井上委員、高橋委員、堀委員より欠席の連絡をいただいています。また田中副会長、白井委員、宮内委員、小島委員については、若干遅れるようです。後ほど来られると思います。

続いて、本日の資料の確認をお願いします。配付資料は、資料1「令和元年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価(案)」、資料2は1枚ものですが、「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の結果について」、資料2-1として、本日、「実態調査報告書概要版」を、席上に配付しています。資料2-2として「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査報告書」こちらは報告書になります。以上4点です。事前に3点は送付していますので、本日、資料2-1、概要版のみ席上配付しています。

資料の過不足などありましたら、挙手をお願いします。よろしいですか。
ありがとうございます。以上です。

山田会長

それでは次第に沿い、進めます。

議題1 「令和元年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価について」、事務局より、一貫して説明をお願いします。なお、後ほどの質疑は幅が広いこともありますので、分野ごとに進めていきたいと思えます。

2 議題

(1) 令和元年度 文京区アカデミー推進計画の点検・評価 について

細矢課長

それでは、資料1 「令和元年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価(案)」に基づいて、私から一括で説明を行いたいと思えます。

初めにご了承いただきたいと思えますが、本日配付している点検・評価については、まだ文言等推考されていない部分があり、いろいろと言いついに不備がある点があります。誠に申し訳ありませんが、本日はこのような形で、案の状況ですので、容赦願いたいと思えます。本日の会議で本案について意見等いただき、加除修正していきたくて思えます。皆さまからの活発なご意見を頂戴したいと思えます。よろしく願います。

それでは、1枚めくっていただき、目次をご覧ください。

本年度の点検・評価は、2部構成となっており、「第1部 平成30年度事業の点検・評価」については、昨年10月から12月に開催した本協議会の分野別分科会にて、担当課の報告をまとめた事業調査結果に基づき、協議、検討したものをまとめています。「第2部 計画全体の点検・評価」については、昨年9月に実施した実態調査結果に基づく区民の評価により、分野別目標の取組状況についてまとめています。

ここからはページ数で示します。2ページ、「第1章 事業の点検・評価の考え方」をご覧ください。事業の点検・評価は、平成30年度に実施した事業を対象として、①主要な事業の実施状況の点検及び成果に対する評価、②分野別目標に対する事業を通じた達成状況の2つの視点から行われています。

2の体制と手法のところ、(1)点検・評価の体制は、記載のとおりです。(2)点検・評価手法ですが、委員の皆さまに参加いただいた3つの分科会で、5分野について、点検・評価を行いました。分科会では、先ほど述べた①の視点として、分野別目標ごとに主要事業の成果に対する評価を行いました。まず平成29年度事業の点検・評価の振り返りを行

い、その後、平成 30 年度に実施した計画などに記載されている主要な事業の取組状況を基に、主要な事業の成果について、評価を行いました。次に、②の視点の分野別目標に対する事業を通じた達成状況の評価については、分科会での協議内容を踏まえ、分科会の座長が総括して行いました。

3 ページ、「第 2 章 生涯学習分野の点検・評価」をご覧ください。ここからが分野別の点検・評価になります。まず全体として、前年度までの点検・評価報告書との違いについて説明します。本年度は、分野別目標ごとに主要事業名を掲載することで、どのような事業で構成されているのか、そちらの事業がどのような性質のものかについて明確にしました。4 ページをご覧ください。事業は主要事業以外にも多数ありますので、分野別目標ごとに掲載されている事業数についても掲載しています。

続いて 5 ページです。四角囲みで、前年度の点検・評価で行いました 29 年度の課題と今後の対応・方向の要点を記載しています。前年度の点検・評価を受けて、今回の平成 30 年度評価にどのように活かされているのかについて分かる記載にしています。

次に 6 ページです。評価自体の数値化は難しいことから、本年度の評価として、具体的に取り上げられた事業を、参考事業として掲載し、担当課としての成果、課題、取り組み等の評価を記載し、分科会における評価の肉付けとしています。以上が昨年度と異なる、より分かりやすい評価を行うために改善を行ったところです。

それでは分野ごとに、点検・評価について簡単に説明します。今、説明を行った生涯学習分野については、3 ページからになりますが、5 ページから 10 ページまで、こちらが 3 つの分野別目標について、分科会の評価を記載しています。11 ページは、分野別目標に対する事業を通じた達成状況として、本計画を策定し 3 年経過することから、各分野別目標がどの程度できているかについて、最後に総評の形で、座長の田中先生に、分野としての進むべき方向性を、分科会の議論を踏まえて記載していただいています。

12 ページから「第 3 章 スポーツ分野」になります。14 ページから 20 ページまで、こちらが 4 つの分野別目標について、分科会での評価を記載しています。21 ページでは、分野別目標に対する事業を通じた達成状況として、座長の青木先生に、各分野別目標の達成状況、総評を記載していただいています。

22 ページからは「第 4 章 文化芸術分野」になります。24 ページから 29 ページまで、3 つの分野別目標について、分科会での評価を記載してい

ます。30 ページに、分野別目標に対する事業を通じた達成状況として、座長の田中先生に、各分野別目標の達成状況総評を記載していただいています。

31 ページから「第5章 観光分野」になります。33 ページから 38 ページまで、3つの分野別目標について、分科会での評価を記載しています。

39 ページに、分野別目標に対する事業を通じた達成状況として、座長の山田先生に、各分野別目標の達成状況総評を記載していただいています。

40 ページから 5 分野、最後になりますが、「第6章 国際交流分野」になります。41 ページから 43 ページまで、2つの分野別目標について、分科会での評価を記載しています。44 ページに、分野別目標に対する事業を通じた達成状況として、座長の山田先生に、各分野別目標の達成状況総評を記載していただいています。

45 ページから、こちらが「第7章 横断的施策」になります。現計画の横断的施策です。(1)情報の収集・共有・発信、(2)協働する人材の育成、(3)東京 2020 オリンピック・パラリンピックについて、各分科会で議論した内容をまとめて記載しています。

47 ページから「第2部 計画全体の点検・評価」になります。

48 ページをご覧ください。2.(1)点検・評価手法ですが、実態調査として実施した区民向け調査と、区主催事業参加者向け調査の結果を用いています。実態調査報告書、本書では 138 ページ以降になります。後ほどご参照ください。

区民向け調査では、分野別目標ごとの満足度と重要度を点数化し、相対的に重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い分野別目標を抽出し、来年度の計画改定に際し重視するべき分野別目標を把握しています。事業参加者向け調査では、実際に事業に参加した人が、分野別目標を実感しているかどうかを満足度として捉えています。これらの2つの視点から、調査によって出された数値を使い、計画全体の定量的な点検・評価を行っています。

評価の見方については、四角囲みの所をご覧ください。縦軸が満足度、横軸が重要度です。一番左端、低と記載されているところが基準となります。こちらの図の中央で4つに区切り、満足度が低く重要度が高い、第2象限が優先課題エリアとして、こちらにプロットされた分野別目標が、次期計画策定において優先的に取り組んでいくものと考えています。50 ページから、分野ごとの調査に基づく点検・評価になります。

まず生涯学習です。区民向け調査では、満足度の平均は 31.5 パーセント、重要度の平均は 80 パーセントとなり、下の図のとおり、プロットされ、

第2象限に入るものはありませんでした。51ページの事業参加者向け調査では、満足度の平均は、69.1パーセントとなり、区民調査の2倍強であり、実際に事業に参加している人においては、分野別目標に対する取組状況に対して、満足しているといえます。このことから、広く区民には十分訴求できていませんが、参加者には、取組状況が認識されていることがいえます。以降、スポーツから国際交流まで、同様のことがいえます。

なお、調査結果を各分野で図にプロットしたところ、52ページ、スポーツの分野別目標2と、58ページ、国際交流の分野別目標1が第2象限に入る、優先的に取り組むべき分野別目標となります。こちらの2については、次期計画で考慮するものと考えています。

以上、長くなりましたが、点検・評価の説明は以上です。

山田会長

ありがとうございました。それでは分野ごとに進めます。元に戻りますが、まず生涯学習分野についてです。まず担当の細矢課長より、分科会での検討内容の説明をお願いします。

細矢課長

それでは5ページにお戻りいただきたいと思います。生涯学習分野です。先ほど簡単に説明を行いました。まず分野別目標1の四角囲みで、昨年度、平成29年度の課題と今後の対応・方向が記載されています。そちらの振り返りを行い、そちらを基に評価、今後の対応・方向を検討してきています。

(1)では、取組状況の評価では、2点あります。生涯学習の相談については、窓口を開設後、徐々に相談件数が増加し、活用が広がっているという評価です。またアカデミア講座では、区民からの関心も高くなってきているという評価です。

また課題と今後の対応・方向については、4点あります。生涯学習相談窓口については評価がありましたが、さらに開設日時、場所については区民のみではなく、職員にもより周知を行う必要があります。また学習機会の情報集約・周知では、民間等が区内で実施する講座情報も集約し、まとめて区民に情報提供することで、学習機会への参加促進につなげることができるという課題があります。

続いて、参考事業です。こちらは、今ありましたアカデミア講座と生涯学習相談事業について、担当課にて事業概要、成果、課題、取り組みについて記載しています。中ほどに事業実績がありますが、文京アカデミア講座でいいますと、実績数は3,379人、かっこ書きで3,096人、3,262人とあります。かっこ書きについては、前年度、前々年度を記しております。

続いて7ページ、分野別目標2です。前年度の課題と今後の対応・方向については3点ありました。そちらを受けて、取組状況の評価としては、公益財団法人文京アカデミーでは、講座の運営支援などを行う文京アカデミアサポーター等を養成し、活動の場を提供しているとの評価がありました。課題と今後の対応・方向については、区民プロデュース講座の周知、ならびに文京バックアップズの活用の2点です。事業については、区民プロデュース講座、文京バックアップズについて、それぞれ記載しています。

続いて、(3)分野別目標3です。8ページ中段以降です。こちらについては、前年度の課題と今後の対応・方向については1点です。こちらを受けて、取組状況の評価としては、文京お届け講座について、行政の仕事について理解を深めてもらう一方、職員の知識の活用や、資質向上の機会につながる良い取り組みであるとのこと。同時に課題として、文京お届け講座の広報について、区民に広く情報発信するのみではなく、直接広報を行うことも効果的となります。

9ページです。庁内の生涯学習情報の集約・発信について、他部局での生涯学習的な取り組みについては、こちらに情報発信を行うのではなく、生涯学習に関する取り組みとして情報を集約し、まとめて提供することが期待されます。参考事業については、社会教育関係団体登録制度、文京お届け講座について記載しています。以上です。

山田会長

ありがとうございました。次に、座長を務めた田中先生から、各分野別目標や総評について意見を伺いたいと思います。

田中副会長

遅れてしまい、申し訳ありませんでした。11ページをご覧いただきたいと思います。全体として生涯学習分野については、とても多様な事業を展開しており、学習の成果を活かす意味でも、いろいろな側面から促進されていると見ています。ですので、細矢課長が今、話したように、課題の筆頭に来るのは、とにかく広報や周知、行っていることをさらに知らせて広げていこうというのが、大きな評価のポイントになると思います。ただそれぞれの分野別目標を細かく見たときに、以下に話すこともあるのではないかと、11ページに書いています。

まず『分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実』です。今、話したようにとてもよく行っているのですが、強いていえば2つほど課題が挙げられます。第一は、発展的な内容を学ぶために、それぞれについて行政が手取り足取り行うのは無理ですので、ステップアップのニーズに応えるためには、区内にある、あるいは区外でもいいのですが、大学や民間など、多様な学習事業を展開

することができる機関を、有効に活用していくことが一つではないかと思えます。2番目には、区民全体というよりは、どちらかといえば不利な状況にあるような方々、障害者や外国人を含め、多様な方々の学びにくい状況がどこにあるかについて、さらにきめ細かくニーズを把握し、支援していくことが大事ではないかと考えています。

続いて『分野別目標2 一人ひとりの学びの成果を活かす機会の提供・充実』です。今度は学ぶほうではなく、学びの成果を活かすことをどのようにサポートするかについてです。こちらについては、文京アカデミアサポーター、区民プロデュース講座、文京バックアップパーズなど、いろいろな事業を工夫しながら展開していることは、高く評価することができます。今後は、これらをさらに充実させるとともに、新たな方法論としてどのようなものがあるのかについて検討しながら開発し、区民それぞれが、各種の学習事業に企画や運営の立場で参画していく機会をさらに広げることが重要ではないかと考えています。

続いて『分野別目標3』学びを活かしたまちづくり、あるいはコミュニティーづくりといった点です。こちらについては、取りかかりとして文京お届け講座、行政から区民の求めに応じて職員が行き、いろいろと情報提供する、区民とコミュニケーションを行うなど、行政が区民のほうへ出向き行う講座です。こちらはとてもいい可能性を持っていると思えます。区民と行政職員との学び合い、あるいは協働、そのようなことを促進することのきっかけになりますので、その辺りを進めていくのが大事だと考えます。一方で、区民が学ぶことを通して、コミュニティーづくり、あるいは地域づくり、そのようなものへの関心を高めていき、さらにはNPOや市民団体が、学びながら自分たちの活動をさらに向上させることが大事になります。このような団体を活かした学習事業を拡充するように、文部科学省も、今、かなり訴えている「学びと活動の循環」学ぶことと区民活動を行うことが循環的に発展していく、そのようなものを定着させていくのが大事ではないかと考えます。

分野の総評としては、こちらに書いてあるとおりになりますが、今後の文京区におけるコミュニティーづくり、地域づくりにとって、区民の学習や学び合いはとても大事です。人生100年時代の生涯学習を活発化するのが、第一に大事なことです。そちらとともにそのような学びが社会的な課題、例えばSDGs、ダイバーシティ、そのようなものを解決させることを、学びを通して促進することを考えながら、より一層の効果的な生涯学習の推進を図ることが期待されると考えています。以上です。

山田会長

田中先生、ありがとうございます。それでは委員の皆さまから質問、

意見をいただきたいと思います。発言の際は、まず挙手いただき、こちらから指名の後に名前を名乗っていただき発言をお願いします。片貝さん。

片貝委員

生涯学習についての項目は、発言の機会はこの場でしかないと思いましたが、初めに述べます。私は、昭和18年から文京区に住んでおり、リタイアしてから長年お世話になった文京区に恩返しができないかと思い、ボランティアの道に入りました。6年たちます。

私たち、文京アカデミア生涯学習支援者の会は、公益財団法人文京アカデミーと協働して、ボランティア活動を進めています。支援者の会以外の生涯学習については、あちらの山内さんが所属している、文の京地域文化インタープリターの会、こちらの増田純さんの、文京アカデミア生涯学習司の会、文京アカデミアサポーターの会という団体が、それぞれあります。私どもの会は、その3つの団体と横に連携しながら、生涯学習活動を進めています。

今、こちらの資料を拝見していると、公益財団法人文京アカデミーは、非常に多岐にわたる事業を展開しています。本当にいつも側で見ているのですが、感心しています。少ない人数で、講座では110を超える講座、その他特別公開講座、映画会、展示会など、さまざまな事業を展開しています。倒れてしまうのではないかと思うほど、皆さま、よく頑張っています。私たちが全力で公益財団法人文京アカデミーをサポートしているのですが、そのような中で一番うれしいのが、アンケートにもありますが、満足度が非常に高い時です。いつも高いわけではありませんが、たまに110の講座の中でも、2つ、3つは評判が悪いのもあります。しかし、90パーセント以上の割合で、非常に区民の方が、皆さま満足しています。そのような評価を見聞きすると、非常にうれしくなります。やはりお手伝いをしているかいがあつたと感じます。文京アカデミー内のマネジメントが非常にいいので、皆、一生懸命、協力し、生涯学習活動を進めています。以上、私の現状に対する意見です。

山田会長

貴重なご意見、ありがとうございました。他にいかがですか。それでは次に進めてよろしいですか。次のスポーツ分野についてです。担当の川崎課長より、分科会での検討内容について説明をお願いします。

川崎課長

スポーツ振興課長、川崎です。続いて、スポーツの分野について、分科会での検討内容について説明を行います。

資料は12ページから13ページにかけて、スポーツ分野の対象事業の記載があります。50を超える非常に多くの事業が対象となります。

続いて、資料14ページです。こちらからは、主要な事業の成果に対する

評価について、分科会での議論・意見について案内します。

分野別目標は、スポーツについては4つに分かれています。『分野別目標 1 スポーツを身近に感じる機会の拡充』です。こちらについての取組状況の評価は、委員からの意見としては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関するイベントについて、文化と融合した興味深い企画が多く見られたという意見がありました。大会に向けて区民が参加することのできる体験イベントの実施、競技に対して理解を図っています。文京区は、ドイツのホストタウンになりますので、ドイツについての理解を深めるために、多様な文化の紹介講座、学校給食でもドイツ料理の提供などを行っています。このようなさまざまな気運醸成のための取り組みが進められていると、評価がありました。次に、文京区の土地が、東京ドームを本拠地としている読売巨人軍、サッカーを統括している日本サッカー協会、このようなさまざまな団体があります。企業では、文化シヤッター株式会社、ヨネックス株式会社、大学では東京大学、順天堂大学、そのような非常にスポーツに関する地域支援に恵まれていますので、このような団体・企業・大学との協働事業を進めています。こちらについては、特に子どもたちがスポーツに親しむ環境を積極的に創出していると評価がありました。

今後の課題と対応については2つあります。一つ目は、事業参加後の継続的なスポーツ活動の支援です。いただいた意見では、一例を挙げると後に紹介を行う参考事業で、初心者向けスポーツ教室があります。なかなか個人では簡単に始めることのできないアーチェリー、合気道、弓道など、このようなものの初心者向けのスポーツ教室を実施しています。2事業自体は、参加者も多く、効果を上げていますが、一方、教室を受講するのみで、その後の継続につながらず、終わってしまうとの意見もありました。そこで今後は、参加者が教室終了後も協議を継続することができる仕組みが必要ではないかと考えています。二つ目は、地域のスポーツ団体との連携による事業展開です。先ほども申し上げたとおり、さまざまな団体・企業・大学と協働事業を進めていますが、こちらについてもやはり初心者向けの教室が中心となっていますので、その後の継続について、始めた後も引き続き生涯スポーツとしていかに継続していくか、そのようなところで参加者へのフォローアップ教室などがあるといいのではないかと意見もありました。このように集中した期間で、単発に終わるのではなく、緩やかに継続していくことも重要という意見もありました。このようなことを踏まえて、今後の連携協働事業に関しては、協働先の事情もありますが、引き続き協議を行いながら、調整し

たいと考えています。15 ページに、中心となる参考事業として、初心者向けスポーツ教室、地域のスポーツ団体等との連携による事業展開を記載しています。

16 ページ『分野別目標 2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進』です。こちらの取組状況の評価について、アウトドアスポーツ事業、ハイキング、ウォーキング教室などを実施しています。また、シニア向けスポーツ教室として、水泳、健康体操、水中でのウォーキングなどを実施しています。このような事業については、それぞれの段階の参加者のレベルに合わせたコースの設定、広報を工夫しているため、申込者も多くなっています。そのため幅広い年齢層の区民が参加することができていると評価がありました。また、今年行われるパラリンピックの競技種目でもあるボッチャは、非常に手軽に行うことができる一方、非常に競技性も高く、魅力のあるスポーツです。場所を選ばずだれでもできる性質があり、障害者スポーツへの取り組みとして、中心的に継続しています。スポーツ推進委員の方の事業の中でも、非常にこちらについての教室の依頼も多く、また文京花の五大まつり等でも体験会を実施しているところです。こちらも東京 2020 大会開催後も、普及振興として取り組んでいく必要があるという意見がありました。

今後の課題と方向性は、こちらも 2 点あります。一つ目は、地域スポーツ団体からの依頼種目の拡充です。ボッチャの推進に、またニュースポーツのドッジビーという柔らかいフライングディスクを使ったような競技もあります。そのようなさまざまなニュースポーツ、またスポーツリーダーとして、各種目の登録をしていただき、地域で普及また指導を行っていただいています。こちらに例えばドッジビー、ボッチャは非常に盛んだが、それ以外はどうか、またスポーツリーダーの指導種目も、テニスと卓球などは非常に多く利用されていますが、それ以外の種目は、利用が進んでいないところがありますので、そのような指導可能な競技種目がさまざまあることを、地域各団体に周知していく必要があるとの意見があり、そちらについて取り組んでいく必要があります。

二つ目は、障害者スポーツ体験教室の実施です。こちらについては、平成 30 年度は、車いすバスケットボールの体験会、またブラインドサッカーの体験会などを行っています。これは、なかなか定員に充足しない場合があることも現実です。東京 2020 大会が近づき、認知度が高まってきてはいますが、まだこれからの部分があるのが事実です。こちらも周知先を再考していきたいと考えています。今までであれば区報への掲載、学校でのチラシ配布が中心でしたが、SNS、それも区の SNS のみではなく、

先ほど申し上げたとおり、区内企業、各団体等協働先がありますので、そのようなところの SNS でも取り上げていただくことで、より多くの方に周知を図っていきたいです。また、現在障害者スポーツに関しては、パラリンピックの開催に向けて、パラリンピックサポートセンターがあり、そちらにかなり協力をいただいています。しかし、こちらはパラリンピック開催後に解散が予定されており、今後このような障害者スポーツ教室を続けていくためには、それぞれの競技団体、車いすバスケットボールなど各競技団体との連携をつなげていきたいと考えます。参考事業としては2つあります。16 ページには、スポーツ指導者地域派遣として、スポーツ推進委員、スポーツリーダーの事業です。17 ページは、障害者スポーツ体験教室の事業を、参考に掲載しています。

3 目目の分野別目標は『スポーツ活動を支える環境の整備』です。こちらの取組状況の成果については、区内の最大のスポーツ施設である文京スポーツセンターが茗荷谷にあります。こちらは平成 30 年 6 月にリニューアル工事が完了したのに伴い、バリアフリー化が実現し、だれもがスポーツを楽しむことができる環境が整備されました。それ以外の文京区の屋外スポーツ室、また学校施設も含めて区民の身近なスポーツ活動の場として整備されているとの意見がありました。スポーツボランティアは、東京 2020 大会に向けた取り組みとして、大会のボランティア、さまざまな都市ボランティアへ推薦につながっています。

今後の課題と方向について、こちらはスポーツ活動を支える人材の育成・確保です。先ほど説明したスポーツ推進委員、さまざまな幅広い競技の指導・普及・啓発を行っていただいています。制度的な課題として、全ての委員の方が積極的に活動することができているかといえば、なかなかできていない面があります。こちらについては、推薦公募の段階で、意欲のある方を募る方向を考えていき、意欲があり継続的に活動することができる人の確保に努めていく必要があります。こちらの参考事業としては、18 ページ、スポーツセンターの改修、スポーツ推進委員・スポーツリーダー等の委嘱の 2 事業を掲載しています。

最後に『分野別目標 4 スポーツを通じた仲間づくりと交流』です。取組状況の評価としては、ドッジビー、ボッチャ等の教室・大会では、引き続き多くの参加者があり、普及が進んでいるとの評価です。また、大学との連携として、文京区は 23 区の中でも大学が最も多いので、そのような大学との連携企画、区民同士の交流の機会の創出がそのようなものにつながっているとの意見がありました。今後の課題と方向について、スポーツボランティアの活動場所の拡充です。スポーツボランティアは、

区が主催する事業を中心に参加していますが、より活躍を広げるために主催事業以外の、例えば大学などの各団体のイベントへの参加、また区内ではなかなか行われない、例えばマラソン大会など、区外で行われるさまざまなイベントに参加することで、より活動の幅を広げていくことが必要ではないかと考えています。こちらの参考事業としては、スポーツボランティアの養成、ニュースポーツ教室・大会について、19ページから20ページに記載しています。説明は以上です。

山田会長

ありがとうございました。では座長を務められた青木先生から、各分野別目標や総評について、意見を伺いたいと思います。よろしくお願ひします。

青木委員

座長の青木です。お手元の資料の21ページに、達成状況についての評価を載せています。ポイントのみ説明を行います。

『分野別目標1 スポーツを身近に感じる機会の充実』では、先ほど川崎課長からの話にもあったとおり、非常に多くの事業が展開されるのが特徴になります。ただ、事業は多いのですがあまり周知されていない、情報発信の方法に少し問題があるのではないかと、そのようなことについては課題ではないかと考え記載しました。

続いて『分野別目標2 いつでも、どこでも、だれでも気軽に楽しめるスポーツ活動の促進』について、こちらは、スポーツには基本的に非常に多くの事業、多くの機会を提供しているのが文京区の特徴です。ただ、実際に内容を見ていくと、実施種目、参加者に非常に偏りが見られるところも一つの課題ではないかと思ひます。また、障害者スポーツについては、指導員の確保も非常に重要な点になると思ひます。

『分野別目標3 スポーツ活動を支える環境の整備』については、区内のスポーツ環境整備は非常に進んでいます。また、学校開放なども展開しており、環境面については非常に多いと思ひます。一方、施設の稼働率が非常に高いのが特徴であり、必ずしも、区民の方々には環境が整っているのかについて、ややストレスを感じる部分があると思ひます。また課題としては、環境面ではなく人材の育成の部分が少し不十分であるのが、ポイントです。

『分野別目標4 スポーツを通じた仲間づくりと交流』について、こちらは非常に参加者が多くなっていることについては評価することができますが、一過性のイベントになっていないかという点を懸念しています。交流の観点から、他分野、他の事業などと連携し、スポーツでまずコミュニケーションを取るところもヒントになるのではないかとこのころです。

全体としては、先ほども話しましたが、非常に多くのスポーツイベントが実施されています。委員の中から、事業数が少し多過ぎるのではないかという指摘もありました。実施されている事業において成功しているもの、やや不十分なものが見られます。次のステップとして、事業の内容を精査し、見直す必要がある箇所を見直し、非常に成功している事例を伸ばすところがポイントになるのではないかと思います。また、情報発信方法の充実はもちろんこと、スポーツの人材育成については、人の問題も大きなポイントになりますので、育む観点もスポーツの中で重要なキーワードになると感じました。以上です。

山田会長

青木先生、ありがとうございます。それでは委員の皆さまから、質問、意見をいただきたいと思います。

山田会長

では、田中先生お願いします。

田中副会長

別の分野の担当ですが、もし後のほうがよければ後に回していただいてもいいのですが、アンケート調査の結果を見ると、とても興味深い結果でしたので、可能であれば今教えていただきたいです。

47 ページ以降に、計画全体の点検・評価があり、50 ページ以降は、分野別の調査の結果が載っています。私が担当した生涯学習と文化芸術分野については、いずれも目標 1 が、重要度も、満足度も高いです。どちらかといえば、だれでも、いつでも学んだり、楽しんだりできる機会を行政が提供しているかどうかです。生涯学習も文化芸術分野についても、目標 1 がそちらに当たりますので、重要度・満足度ともに高いです。スポーツが少し変わった傾向を持っており、52 ページですが、「いつでも、どこでも、だれでも」が、分野別目標 2 に当たります。こちらの重要度は高いのですが、満足度が低く、分野別目標 1 の「身近に感じる」は、重要度は低いのですが、満足度は高いです。この辺りは、生涯学習、文化芸術分野とスポーツの違いがありますので、何か実態あるいは何かの要因でこのようになっているのかについて聞くことができるとありがたいと思います。

川崎課長

スポーツ振興課長の川崎です。アンケート結果について、非常に特徴的な出方をしていると思います。今、先生から指摘のあった分野別目標 2 について、いつでも、どこでも、だれでもスポーツ活動ができるのが、やはり区民の方にとっても非常に重要だと認識されています。一方で、満足でないとする理由としては、これ以外のさまざまなアンケートで見ても、家庭や仕事が忙しいため、スポーツ活動ができないとする理由が最も多いと思っています。ですので、文京区は、スポーツに取り組みたいし、重要だと思っているが、なかなか忙しい方が多いと考えています。

そのような忙しい中でもスポーツを行う環境をつくることができれば、このような満足度は上がってくるのではないかと思います。ただそれが道半ばで十分ではないと感じられているのではないかとこのところです。一方でさまざまな事業を行っていますが、53 ページを見ると、事業に参加していただいた方は、かなり満足していますので、先ほどから出ていますが、従来の周知のみではなく、さまざまな協働先とも連携を行い、周知し、事業の見直しも図りたいと考えています。

田中副会長

ありがとうございます。一言、学ぶほうについても、生涯学習についても、文化芸術についても、やはり行いたいのが忙しくてできない方はそれなりにいます。ただそれでもこちらのほうは満足度も高いので、スポーツについては、体を動かすだけあり、特別に時間を取らなければできないために、学習と文化芸術に比べると、個人としてのハードルが高いと考えるのが妥当なのですか。行政側の供給状況に不満があるのではなく、自分自身の生活上の制約に対しての不満と理解したほうがいいのですか。

川崎課長

スポーツ振興課長、川崎です。さまざま理由はあるとは思いますが、やはりわれわれとして感じているのは、環境整備といいますか、特にスポーツの場合は、始めようと思ったとしても、どのように始めていいのかわからない方も、より多くいるのではないかと思います。そのような考えで、さまざまな企業などの方に協力いただき、初めてでもできる、子どものうちから始める、大人の方でも初心者でもできるなどのアプローチを、今、しているところです。

山田会長

議題2にも関わるようなことでしたが、またその議題のところの問題を提起していただければと思います。他によろしいですか。よろしければ、文化芸術分野についてにまいります。まず担当の細矢課長より、分科会での検討内容について説明をお願いします。

細矢課長

それでは、文化芸術分野です。

資料 24 ページを開いてください。主要な事業の成果に対する評価です。まず分野別目標 1、前年度平成 29 年度の課題と今後の対応・方向の要点、取組状況の評価です。2 点ありますが、1 点目が、区内にある宝生能楽堂と連携し、日本の伝統文化である能を、親子で体験することができる機会をつくり、リピーターも増えてきています。子どもや次の世代への取り組みに力を入れて、成果を出しており、評価をすることができます。もう 1 点、文京シビックホールでは、事業提携を結んでいる楽団等による公演が、年々安定した人気を博しています。保護者と子どもと一緒に楽しむことができるコンサートの開催、手話通訳者が演者として出演する、区民参加の演劇への取り組みなどを進めていることが評価さ

れています。

課題と今後の対応・方向について、評価いただいておりますが、能への理解を深める機会の創出として、時間内で数種類の能の体験をしてもらうプログラムになります。能に対する一時的な関心喚起も重要ですが、関心を継続し、深掘りしていく機会も重要です。また、事業提携団体の認知度の向上として、文京区及び公益財団法人文京アカデミーと事業提携を行っている団体が4つあります。シエナ・ウインド・オーケストラ、東京フィルハーモニー交響楽団、牧阿佐美バレエ団、太鼓の鼓童です。区民の認知度を向上することで、地域とのつながりが生まれ、事業の参加も促進されるため、周知に努められたいとのことでした。次、25 ページです。こちらが参考事業として、今、話した「能(Noh)プロジェクト」、また、事業提携楽団については、東京フィルハーモニー交響楽団、シエナ・ウインド・オーケストラですが、そちらのコンサートについて掲載しています。

続いて26 ページ、分野別目標2です。前年度の課題と今後の対応・方向については2点あります。本年度の取組状況の評価は、競技かるたの発祥の地が文京区であること、全日本かるた協会が区内に本部があることで、かるたの街として事業を展開し、参加者からの満足度も高いことについては、評価することができます。2点目は、シビックホールでは、区民参加型公演に舞台手話通訳を取り入れるなど、先進的な取り組みも行っています。

課題と今後の対応・方向は、アートウォール・シビック、地下1階の廊下の壁を使った展示です。例年展示を行っていた団体が、高齢化等さまざまな要因で応募ができなくなることもあり、新たな出展団体の開拓を行うなど、取り組みの工夫が求められます。2点目が、身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充です。シビックコンサートは毎月開催していますが、ランチタイム、昼の時間帯に地下2階のホールで行っていますが、日中になりますので、観客の機会に限られることもあります。仕事や学校帰りの人も立ち寄ることのできる夕方時間帯に開催し、より多くの人が音楽に親しむことができるような機会を拡充することも検討が必要です。27 ページ、こちらが参考事業として、「アートウォール・シビック」、「かるたの街文京を発信！」の2つの事業を掲載しています。

続いて、分野別目標3です。こちら前年度の課題と今後の対応・方向は2点です。取組状況の評価としては、1点ですが、さまざまな事業が実施されており、充実しています。特に昨年度は、「文の京」歴史再発見」で、殿様サミットを開催しました。こちらは定員の5倍を超える、

非常に多くの申し込みがあり、区民の関心度が高いイベントを実施しています。課題と今後の対応・方向は2点です。1点目は、文京ふるさと歴史館の展示・広報の充実です。特に、文京ふるさと歴史館の特別展については、毎回質の高いものになっているが、展示作品の数や展示方法などを工夫し、だれでも楽しめるように取り組んでほしい。2点目は、観光分野との連携です。博物館を文化資源のみではなく、観光資源として活用する流れもあり、分野を超えて、観光分野と連携した事業の企画などが今後、求められます。事業としては、28 ページ、文京ふるさと歴史館特別展、29 ページ、文京ふるさと歴史館だより・年報の発行の2つを掲載しています。以上です。

山田会長

ありがとうございました。では座長の田中先生から、各分野別目標、全体に対するコメントをいただければと思います。

田中副会長

それでは30 ページをご覧くださいながら、お願いします。分野別目標は3つありますので、一つずついきます。

まず一つ目は、『だれもが文化芸術に親しむことができる環境づくり』の点については、特に事業内容を見ると、子どもや親子向けの事業がとても充実しており、次世代育成の観点から、とても意欲的な事業が展開されていると見ています。私は文京区民ではありませんので、肌で感じているのではないので的外れかもしれませんが、2つほどあえて申し上げると、いわゆる不利になりやすい障害者、外国人などを含め、そのような方々に対する提供の在り方をさらに工夫すること、もう一つは、文化芸術分野はかなり多様になりますので、分野、国、地域、伝統、現代などの違いによるいろいろな多様性があると思います。どの辺りに焦点を当てていくかについては、今後とも検討していくべきではないかと思いました。

次に目標2です。『文化芸術を鑑賞・創造する活動の支援』です。鑑賞になると、目標1と少し重なりますので、分かりにくい面もありますが、こちらの目標2では、むしろ受け手となり楽しむのではなく、自ら送り手といいますか、活動主体となり活動していくことに力点を置いていると理解し、書きました。鑑賞して楽しむのみではなく、区民自身が主体的な活動として行うことが重要ではないかということです。さらには文化芸術そのものを創造していくような活動、そのために、区のほうで何らかの支援がさらに充実することも重要ではないかと考えました。

目標3については、先ほど課長からも話がありましたが、非常にニーズの高い事業も展開されており、高く評価することができる部分ではないかと思っています。そのような中で、今後の課題としてあえていうので

あれば、このようなことを通して、文京区としての新たな地域文化を生み出していくところまで、かなり高まっていくといいのではないかと考えています。

最後、分野の総評は、文京区になるとかなりもう、東京 23 区の中でもありますので、一般の自治体における地域らしさのようなものが需要かどうかは、議論が分かれるところだとは思いますが、一応、文京区らしい文化芸術活動も重要ではないかと思ひ、その辺りに今後はさらに力点を当てる必要があるかと思ひます。先ほどの話にもありましたが、観光分野、あるいは国際交流など、いろいろな分野との相互乗り入れが柔軟に行われやすい分野ではないかと思ひます。そのようなことを通して、分野横断的な成果にもつながっているのではないかと考えています。以上です。

山田会長

田中先生、ありがとうございます。それでは委員の皆さまから、意見、質問をお願いします。

関委員

東京商工会議所から参りました関と申します。私は、分科会、観光と国際交流にて出ささせていただき、議論を行いました。そちらと交流、コラボレーションを行うことができるのではないかと思ひた点を 1 点話したいと思ひます。26 ページの(2)の②身近な場所で音楽に親しむ機会の拡充として、シビックコンサートを毎月開催されているようですが、日中に足を運ぶことができる観客に機会が限られてしまっているとのことで、夕方開催も検討が必要ではないかと思ひます。観光の分野で後ほど出てくると思ひますが、スカイビューラウンジで、すてきな景色とお酒を少し楽しむことができるイベントがあります。やはりわれわれ商工団体としても、企業の皆さまに数多く周知していただき、仕事帰りに音楽を楽しみ、その後スカイビューラウンジにて、すてきな景色を堪能していただければいいという、横断的な部分が取れるのではないかと感じた次第です。以上です。

山田会長

ありがとうございます。

細矢課長

文化芸術分野のアカデミー推進課長、細矢です。今、ご意見をいただきましたが、シビックコンサートを地下 2 階の区民ひろばにて、月 1 回、近隣の音楽大学を中心に開催しています。今、意見をいただいたように、こちらでも話がありました、時間帯を別の時間帯、特に夕方という意見をいただいています。こちらについては、私どもは検討を行うところです。アイデアとして、非常に貴重な意見としていただいていますので、こちらはぜひ検討していきたいと思ひます。

山田会長

他にご意見いかがですか。

鈴木課長 観光・都市交流担当課長の鈴木と申します。貴重なご意見、ありがとうございます。今、関委員からも提案がありましたが、地下2階にて行っているイベントで協力をいただいている専門学校にも、お声がけしましたが、一度断られた経緯があります。とてもいい提案ですので、今後もさまざまな団体に声かけを継続していきたいと思っています。

山田会長 他に意見、質問はありませんか。

山田会長 高澤委員、何かありませんか。いかがですか。

高澤委員 シエナ・ウインド・オーケストラの高澤です。特に意見や質問ではありませんが、感じたのは、自分の団体の評価がされるので、25ページの事業3のところです。こちらは、東京フィルハーモニー交響楽団とうちのものですが、集客がどうしても、東京フィルハーモニー交響楽団は、1600人以上集めていますが、シエナ・ウインド・オーケストラは1000人と少しです。この辺りが、力の差を感じてしまいます。実は、私は、シエナ・ウインド・オーケストラに来る前は、東京フィルハーモニー交響楽団の事務局にいましたので、東京フィルハーモニー交響楽団にいた頃は、これほど入りませんでした。私が抜けてから入るようになりました。少し責任を感じていますが、この辺りは、少し頑張らなければいけないと、個人的な意見で恐縮ですが、思った次第です。

山田会長 ありがとうございます。牧野委員、いかがですか。

牧野委員 文化芸術団体宝生会の事務局の牧野です。指名いただきました。私どもの宝生能楽堂での参考事業として、事業2の「I don't know(能)・・・NO(能)problem!～みんなで楽しむ「能(Noh)プロジェクト」～」こちらを挙げていただき、ありがとうございます。なかなか能楽の公演は、もちろん定期的に行っていますが、非常に集客が大変です。このように文京区さんのおかげで、このような会を行うときは、申し込みの方が非常に多く、能楽堂がにぎわうのは、本当に珍しく、非常にありがたい事業です。課題のところ、昨年度と同じ内容でとありますが、こちらが平成30年8月12日ですが、平成29年からこちらの事業を始め、昨年も行い、本年も行う予定で進めています。今年は第4回となります。2年目のみ、非常に文京区さんと宝生会も慣れていないこともあり、こちらの年が一番事業として手抜きをしてしまった部分があり、申込者が定員に達しなかったことがありました。昨年は、また同じように違う曲で、きちんとした構成で非常に多くの方に参加していただきました。こちらの課題は既に解決していることを補足します。ありがとうございます。

山田会長 ありがとうございます。他にありませんか。それでは、次に観光分野について、担当の鈴木課長より、分科会の検討内容について、説明をお

願います。

鈴木課長

観光・都市交流担当課長の鈴木です。説明を行います。

まず観光分野の点検評価として、31 ページを開いてください。観光分野における主要事業として、全部で27 事業あります。そちらの内訳を掲載しています。

続いて、33 ページを開いてください。分野別目標ごとに説明を行います。まず『分野別目標1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出』として、取り組み状況の評価について、3 点あります。一つ目は、肥後細川庭園を中心とした目白台エリアについては、観光客を周遊しやすいような取り組み、施設との連携が図られています。二つ目は、25 階の展望ラウンジも一つの観光拠点ですが、そちらで行われているスカイビューラウンジバー、こちらについては回数を増やす、文京博覧会との同時開催、このような取り組みにより、多くの方に来場いただきました。三つ目、区の観光資源を被写体とする観光写真コンクール、こちらについても応募者のみではなく、写真展を行っているのですが、そのような来場者に対しても区の魅力を発信する場として評価することができる、このような意見をいただいています。

続いて、課題と今後の対応について、2 点あります。一つ目が、先ほどの観光写真コンクールの改善です。文京花の五大まつり等のイベントについては、年間 165 万人の方にお越しいただいていますが、その中でも当然、多くの方が写真を会場で撮っていますが、実際の応募点数は、461 点となっており、写真コンクールへの応募に至っていないケースが多いことが考えられます。そのことを踏まえると、気軽に応募できる機会や、外国人部門を設けるなどの改善を図ることができないかという意見をいただきました。

二つ目が、新しい視点を取り入れた観光リーフレットの作成です。観光マップの年間作成部数は、昨年比べて1 万 8000 部増加しています。これに関して、例えばスポーツや健康の要素を取り入れて、スポーツとのリンク、連携を図ることができるのではないかという意見をいただいています。こちらの分野別目標に関する参考事業については、観光写真コンクール、展望ラウンジ観光拠点化事業、観光リーフレット作成を掲載しています。

続いて、35 ページを開いてください。『分野別目標2 情報の収集・活用による来訪の促進』です。取組状況の評価については、2 点意見をいただいています。一つ目が、フィルムコミッション事業です。フィルムコミッションとは、簡単に申し上げると、区の観光資源を映画やテレビド

ラマ等の撮影に使ってもらうよう、呼び込む事業です。この取り組みは昨年度に比べると、件数が増加しており、それによって区の魅力を発信することができている、今後も活用が期待できるとの意見をいただいています。続いて、文京花の五大まつり等には、先ほど申し上げた 165 万人にお越しいただき、前年度に比べ 18 万人増加しました。このことから、区内外の観光客からの認知度も高まっているのではないかという意見をいただいています。

このことを踏まえて、課題と今後の対応についてです。区と友好関係にある自治体との交流事業の拡充として、区では、13 の国内交流自治体と協定を結んでいます。このようなところと各種さまざまな交流イベント等を実施していますが、このことにより、お互いのまちを訪れようとする住民たちの機運、相互の観光振興につながっているのではないか、そのようなことが期待できるとの意見をいただいています。もう 1 点は区外への広報の促進です。民間企業、新聞やラジオ、テレビ等へのパブリシティを工夫することで積極的に情報発信を行うことは、来訪者の増加につながるのではないかと意見をいただいています。参考の事業として、全部で 3 点あります。フィルムコミッション事業、花の五大まつり事業、国内交流事業、これらの成果、課題等を掲載しています。

最後に 37 ページを開いてください。『分野別目標 3 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり』、こちらの取組状況の評価として、2 点意見をいただいています。一つ目は、実際の観光振興の実務的な部分を担う観光協会、この組織と区が協働して、まつり等での観光の PR、先ほど話した写真コンクール、このようなさまざまな事業を展開することで成果を出しています。二つ目、外国人おもてなし隊育成事業です。区民の方に、外国人へのおもてなしを学んでいただく取り組みですが、この講座への参加者が、区のボランティア事業への参加にもつながり、うまく連携できている、こうした評価をいただいています。

38 ページ、課題と今後の対応について、2 点意見をいただいています。一つ目、効率的な事業の実施として、観光協会と連携をしている事業に関しては、効果測定等の結果を踏まえて、効率的な事業の実施を期待する。二つ目、区内企業との連携として、企業の協賛や CSR 活動等により、まつり以外の事業にも活用することで、取り組みの幅が広がるのではないかと。区内企業との接点を持つ機会を創出する、このような取り組みが必要だという意見をいただいています。参考の事業としては、外国人おもてなし隊育成事業を掲載しています。説明は以上です。

山田会長

ありがとうございました。観光分野については、私が座長を務めました

ので、分野別目標に対する達成状況の評価について、コメントをさせていただきます。

39 ページをご覧ください。こちらに分野別目標 1、2、3 とありますが、この中で分野別目標の 1 が 15 件で一番多いです。2 が 7 件、3 が 5 件、このような構成になっています。従って『分野別目標 1 観光資源の発掘・保護を通じた文京区の魅力・個性の創出』こちらについては、非常に多方面な事業を展開しています。文京区に既にある観光資源を、新たな視点からクローズアップするという、また地域の魅力を創出する、このような目的は、さまざまな活動を通じて目標を達成しています。具体的には、観光写真コンクール、観光リーフレットの作成、デジタルジャーニー、このようなものの実績は、数値的にも確認することができます。実際に出た意見として、観光写真コンクールには、なお工夫の余地があると思いました。具体的には、スマートフォンで気楽に応募することができるような工夫があってもいいのではないかという意見が出されました。

『分野別目標 2 情報の収集・活用による来訪の促進』です。ここでもフィルムコミッション事業、文京花の五大まつり、さらに友好関係のある自治体との交流事業、このようなことを通じて目標を十分に達成することができました。ただ残っている作業としては、検証の部分です。実際、観光客の属性はどうか、このようなことについては、今後の課題として考えていきたいとのことでした。

『分野別目標 3 持続可能な観光まちづくりを支える仕組みづくり』です。特に観光インフラ、そのような点を整備していくことから、観光協会との連携、外国人おもてなし隊育成事業、このようなところで積極的に取り組みが行われています。そのようなことを評価しつつ、コストパフォーマンスを意識して活動していく必要があるのではないかという意見が出ました。

以上、3つの目標について、総括すると、④になります。『文京区の観光資源を再発見すると同時に、新たな企画を通じて来訪者の増加を図る試みは、所期の目的を達成し、観光面からサステイナブルなまちづくりを志向してきた。これらの事業は、それぞれの目標を達成し、評価に値する』。その辺りについては、後ろのほうに出ているアンケート調査によっても、特に観光分野については、満足度、重要度、非常に高い数値を示していることにより、裏付けられています。

それでは、委員の皆さまから質問、意見をお願いします。いかがですか。白井委員、どうぞ。

白井委員 観光協会を代表して参りました白井です。私ども観光協会としては、区と協力し、いろいろと事業を行っています。例えば、表に出てこない部分において、年2回、バスツアーを行っています。日帰りバスツアーです。そちらには区民の方からも大勢の応募があります。何を行うのかと聞いてみると、いろいろと手軽に行くことができる観光地へ連れていき、見て、1日参加してもらいます。よその観光地を見ることで、文京区の中の観光も、そちらをどのようにして、興味を持っていただくのです。そこに来ていただく方たちが、申し込み、こちらのツアーに来たいと来てくれますが、観光協会が文京区にあることを知らない方がとても多いです。そのときに参加してくれている方に対して、観光協会が文京区にこのようなことがあり、このような活動をしているとPRする場のように、今はなっています。そちらにいつも応募してくれる人が、お断りするほどの多くの方たちに来ていただき、文京区の中に観光協会があることを知っていただくことのみでも、大きな役割をしているのではないかと考えています。

山田会長 ありがとうございます。他に意見、質問等ありませんか。遠慮なくいただければと思います。どうぞ。

今井委員 公募委員の今井です。2点あります。

1点目は、観光写真コンクールの話です。1階のエレベーターの後ろの部屋で、コンクールの写真を行っていると思うのですが、場所についての提案です。エレベーターホールで、写真展の存在を知っている方、そちらに展示を行うスペースがあることを知っている方でなければ、なかなか立ち寄りにくいのではないかと考えています。シビックセンター1階のホワイエは大きいので、もう少し目に付く所であれば認知度も上がりますし、発表する方の意欲が上がるのではないのでしょうか。あとは可能であれば、区役所以外の場所でも何らかの人目に付く所があれば、掲示できるのではないかと考えています。

あとは、スマートフォンで撮った写真を気軽に応募することができるというのは、とてもいい策だと思っています。私も応募してみようと思ったのですが、確か印刷しなければいけないという事項があり、そこが、敷居が高いと思いましたので、気軽にアップロードすることができると、より参加者が増えるのではないかと考えました。

2点目がどこに該当するか迷うところなのですが、観光資源、分野別目標1か3になると思いますが、区の施策以外に、NPOや民間、一般人の方で行っているものもあると思います。そのようなものを活用すればいいのではないかと考えました。具体的には、私は今、文京区の「坂みちア

プリ」があり、113 坂を回る散歩道のアプリがあります。私は区民なのですが、行ったことのない場所もかなりあり、そのアプリを使うことで、本日はこちらに行こうと、毎週のように楽しむことができています。そこには坂の由来なども書いてあり、そのようなときに文京区の由来も分かり、このようなところにお店があるなどを知る機会にもなります。区のみで全部行うのは大変ではないかと思しますので、そのような面白いことを行っている民間や住民の方々の力を借りていくと、より観光が振興するのではないかと思います。意見は以上です。

山田会長
鈴木課長

鈴木課長。

貴重な意見、ありがとうございます。まず一つ目の写真コンクールに関しては、区報、ホームページにて、どこでどのようなことを行っているのかについて、周知しています。ただホワイエも考えたのですが、シックセンターの消防法上の観点から、そのようなスペースで実施することができません。新しい周知方法については、今後の検討課題としたいと思います。

二つ目については、一般の方や NPO の取り組みについて応援という部分では、私も「坂みちアプリ」を企画した方と話をしました。明確な周知につながっているかは分かりませんが、1 階の観光協会の窓口、私どもの窓口にチラシを置くなどの PR を行っています。民間や一般の方の営利につながることもあるので、どこまで協力すればいいかについては難しい部分もありますが、必要に応じて連携を行いたいと思います。

山田会長
山内委員

ありがとうございます。他にいかがですか。山内委員。

公募委員の山内です。報告を見ると、いろいろなことを行っていて、大変頼もしいと思っています。特に既存施設をいろいろと、最近数年にわたり活用しており、25 階の展望ラウンジ、こちらはどこの所管なのか分かりませんが、礪川公園での文京クリスマスマーケットなど、最近いろいろと今まで使っていなかった施設を有効活用して、継続することができるようなイベントに仕上がっており、大変いいことだと思っています。そのような観点から見ると、まだ活用していない施設が随分あるのではないかと思います。例えば、江戸文化の観点からすると、文京区の中に大名屋敷がたくさん残っています。この辺りで江戸の文化をどのように紹介していくのか、あるいは跡見学園の所有している旧伊勢屋質店などを見ていると、開館しているのは、土曜日、日曜日のみです。せっかくあれほどのいい場所に、いい施設が残っているにもかかわらず、文京区としてあまり関与していないのではないのでしょうか。あとは小石川植物園でも、それぞれ所有している人が違いますので提携することが難しい

とは思いますが、最近、既存のまだ何も使われていなかった施設を有効活用して成功している案件がどんどん増えていますので、さらに行うとよりいい観光資源として、有効活用することができるのではないかと改めて思いました。以上です。

山田会長
鈴木課長

ありがとうございました。鈴木課長、いかがですか。
貴重な意見、ありがとうございます。文京区内には豊富な観光資源があり、今、山内委員が言われたような25階でのお酒を有料で提供するイベント、12月には礪川公園で文京クリスマスマーケットを行うなど、実施しています。今、ご提案もいただいたことありますが、まだ豊富な観光資源がありますので、例えばマンガやアニメと連携する、最近行っている大河ドラマと連携するなど、いろいろな切り口でこれから文京区の観光資源を、皆さまからの提案も含めて、検討していきたいと考えています。

山田会長

他に意見はありませんか。いかがですか。ないようであれば、次に国際交流分野についてです。鈴木課長から、分科会での検討内容について、説明をお願いします。

鈴木課長

40ページを開いてください。国際交流分野の点検・評価として、対象事業を19事業掲載しています。1枚めくっていただき、成果に対する評価です。

『分野別目標1 国際理解を育む機会づくり』取り組み状況の評価について、2点、意見をいただいています。まず一つ目、文京区では、ドイツのカイザースラウテルン市と姉妹都市の提携を結んでいます。このようなところとの交流が活発に行われています。年に1回、日本の文化、海外の文化を日本人、外国人に知っていただく国際交流フェスタを毎年実施しています。来場者は1,000人程度で、1割が外国人です。区在住の外国人は5パーセントですのでそれを考慮すると、多くの外国人がそのイベントに来場しているといえるのではないかと、またその場で広く日本人と外国人が交流することができており、このことについて評価するとの意見をいただいています。

続いて、課題と今後の対応が3点あります。まず一つ目が、事業目的の明確化です。各事業の目的が抽象的で、ターゲットが絞り込めていないため、効果を判断することが難しいです。今後は外国人のニーズを把握する取り組みが必要です。二つ目は、子どもたちが海外経験を積む機会の創出です。カイザースラウテルン市とのホームステイ事業を30年以上実施していますが、最近では応募人数も多く、区民の関心も高いです。しかし、相手側の受け入れ先が限定されており、事業の拡大が難しい状

況です。そのため、ドイツ以外の国でも、こうした海外経験を積むことができるような検討が必要ではないか。先ほど申し上げた、国際交流フェスタ等の事業で、小中学生が外国人とコミュニケーションを図る機会の提供を検討してもいいのではないかと、このような意見をいただいています。3点目、新たな情報発信方法の導入です。外国人の参加率が低い事業については、十分に情報が行き届いていないことも考えられるため、外国人がよく利用するメディアで情報発信するなどの検討が必要ではないかとの意見をいただいています。参考事業は、2つ掲載しています。記載のとおりです。

43 ページを開いてください。『分野別目標2 外国人が快適に過ごせる環境づくり』の取組状況の評価について、1点意見をいただいています。外国人観光客に対する多言語での情報発信のみではなく、外国人住民に対して、日常生活において支援を積極的に取り組んでいることは評価できるとの意見をいただいています。

課題と今後の対応について、外国人居住者に対するサービスの向上として、外国人住民に日常生活で困っていることを把握し、適切な支援を行う必要があります。区では、例えばマップ、ホームページ等、英語・中国語・韓国語の翻訳に取り組んでいますが、今後は、やさしい日本語、分かりやすい日本語を使い、発信する、区がそのようなものを積極的に習得する機会を提供する、そのような取り組みも必要ではないかとの意見をいただいています。参考事業については、記載の1件を掲載しています。説明は以上です。

山田会長

ありがとうございました。では、国際交流分野についても私が座長を務めましたので、各分野別目標に対する達成状況についてのコメントを行います。

44 ページを開いてください。一つ目は『分野別目標1 国際理解を育む機会づくり』です。ただ今、鈴木課長から報告がありましたように、国際交流フェスタ、あるいはドイツのカイザースラウテルン市との相互ホームステイ事業、このようなものにより、いってみればインタラクティブな事業が着実に行われてきました。つまり一方向のみではなく、外国人が日本の理解を深める、同時に日本人が外国の理解を深める、このようなことが継続的、かつ着実に行われてきたことが評価することができる点です。

二つ目は『外国人が快適に過ごせる環境づくり』です。この点については、まず多言語化対応の点では、十分な対応をしています。しかし、やはり先ほど5パーセントと数値が出てきましたが、文京区の外国人居住

比率そのものが、他の地域と比べて低いようですので、どうしても緊急性を感じる事ができないようです。そのような点、どのように評価するかについては大変難しいことです。しかしながら、環境整備の必要性については、われわれは認識を深めていかなければいけません。

以上を踏まえて、分野としての総評です。『国際理解を育むための機会づくりにおいては、相互交流の観点から、事業目標が達成され、その業績を評価することができる。一方、外国人が快適に過ごせる環境づくりに関しては、事業活動の規模は限定的であるが、そもそも外国人居住者が比較的少ない現状に鑑み、適正なものと評価できる』という結論を出しました。先ほど観光については、アンケート結果で満足度が高いと申し上げましたが、実は国際交流に関しては、アンケートの満足度が低くない、むしろ低いと言ったほうがいいのかもかもしれませんが、そのような数値的な評価が出ていることを付け加えさせていただきます。

では委員の皆さまから、質問、意見はありませんか。白井委員お願いします。

白井委員

白井です。私は文京区音羽にいますが、目白台に、このたび東大留学生の施設ができました。それはまだ始まったばかりで、私もよく分かりませんが、そこには、多くの外国から来た留学生が何百人も入ることになるようです。昨年9月にオープンし、今、徐々に増えています。最終的には1,000人ほど入るようです。私も、今、観光協会からいろいろと文京区のチラシを持ち、そちらの1階のレストランへ置くと、あっという間になくなってしまいます。今、そちらを運んでいる状態です。そのようなところと何か提携をしていけばいいのではありませんか。まだ施設の準備もきちんとできていないようですが、そのようなところとの話し合いはできているのですか。

鈴木課長

ご意見、ありがとうございます。9月にオープンし、最大で850人の外国人、留学生の方が入居するようで、昨年前半頃から、東京大学の事務局とは何度か打ち合わせを行っています。国際交流イベントをはじめ、さまざまなイベントのチラシ等の配架、今後はいかなる区の観光案内など、そのような取り組みについて、連携することができるか、事務局と今後、話をしていきたいと考えています。

山田会長

よろしいですか。他に意見をいただければと思います。佃委員、お願いします。

佃委員

私は、佃といいます。アジアの留学生の世話を行ってきました。その視点から少し話します。たくさんの意見等を協議会の中でも取り入れていただいていると思いますが、今ここでお願いしたいのは、文京区は大学が多いで

すし、小中高も憧れの学校が多いです。そこで、次代を担う区としては、国際化です。国際は、アジアやヨーロッパのみではなく、世界中です。で、大学や高等学校では特に、子どもたち、あるいは大学生に対して、これからの社会づくりにどのように参加させていくかの視点をもって、区のいろいろな活動にも参加させることで学び合います。他の学校の学生とも意見交換を行いながら進めていくという、区としての役割であり、学校は自分の所のみ行うのが学校です。そうではない役割を、横に、横断的に、何かボランティア活動を含めて、学生国際化支援隊ではありませんが、そのような試みを、教育関係者の方にお願ひし、一緒に何か若者も巻き込むところに特徴を抱けば、文京区らしい国際化を行うことができるのではないかと思います。

なぜかといえば、今、起きている国際化、多文化社会は、特に労働者、働く人を中心に一気に増えていき、あるところでは20パーセントの人口比率になっています。これはもう近々、明日どうするかという問題で取り組んでいます。文京区は、そこまではないので、ゆっくり未来の人間をつくるという視点で、国際化の波に少しでも乗っていただければいいと思っています。成果そのものではなく、人を巻き込んで仲間をつくり、一つの学校のみを発想ではなく、こちらの学校の学生はこのように考えているなど、そのような学校同士の学生が国際化を図りたいと。そうすると、こちらの学校では、このような留学生が来る、このような国の人と付き合っている、そのような人がまた一緒になり、話し合う、文京区のような活動に参加することができれば面白いのではないかと、そうしたことをもし取り入れていただければ大変ありがたいです。ただ、全員の大学、いろいろなところの協力が必要になりますので、簡単にはできませんが、視点としては、そのようなのがあってもいいのではないかと、文京区らしさの国際化を狙ってはどうかと、このようなことです。以上です。

鈴木課長

貴重な意見、ありがとうございます。既に佃委員のところのアジア学生文化協会とは連携しています。新しい取り組みでいいますと、来年度から後楽にあります日中友好会館に、留学生が200名程度いますので、そちらと文京区民との連携事業を始める予定です。

今、提案いただいた、大学との連携に関しては、留学生を多く持っている大学の事務局とは話をしているのですが、なかなか事業構築までは至っていない状況です。今は先ほど申し上げた2団体を中心に交流していますが、今後は大学との連携も視野に入れて、活動していきたいと考えています。

- 佃委員 その件で、私たちが協力をして、留学生のみです。欲しいのは日本人の若者です。それは大学が、宝をたくさん持っています。こちらにもう少し何か知恵がないかと、混ぜていくことをお願いしたいです。
- 山田会長 貴重なご意見、ありがとうございます。他に意見はありませんか。どうぞ。関さん。
- 関委員 関です。生涯学習から今、それぞれの分野を拝見しましたが、横断的なところ、次で発表しようと思っていたのですが、今のほうがいいと思い、発言します。出てくるキーワードが、必ずどの分野も、必ず外国人、障害者、ボランティアのキーワードが必ず出てくると思っています。それぞれ各分野の課題解決の中で、自分たちの分野のみでは、なかなか実現が難しいのですが、こちらに国際交流の分野、エッセンスを加えていただくなどすることにより、それぞれの課題を解決することができるのではないかと感じた次第です。例えば今、観光の分野で、白井委員からバスツアーがありましたが、生涯学習という意味では、社会人になってもいろいろな年になっても、勉強できる意味合いもあります。一般、大学入試センターの試験がありました。あの時期になると必ず東京大学の前にテレビ局の中継車が押し寄せて、放映されます。われわれ文京区にいる者は、あちらは毎年出る、台風になると新宿駅南口が出ると、必ずテレビに流れるようなポイントがあります。観光という分野と学習という分野を掛け合わせると、観光地を、ツアーを巡るのみではなく、これから大学を受験しようという親御さんを、学校と連携し、文京区の学校を回り、勉強する意識を高めて、合格いただき、文京区に住んでいただくことも取れるのではないかと考えている次第です。そのような部分では、外国人、障害者、ボランティアなどのキーワードがいろいろと出てきていますので、ここを横断的に、大変だとは思いますが深掘りいただき、また新たなアイデアを出していただければと思っています。以上です。
- 山田会長 ただ今、関委員から横断的な施策に関わるもの、また全体的な視点から意見を賜りましたので、次のところ、第7章に、『横断的施策の点検・評価』があります。そちらを含めて、全体を通して、意見、質問をいただければと思います。増田委員お願いします。
- 増田委員 増田です。第7章の横断的な施策の、課題と今後の対応の①新規参加者を増やすための周知で、チラシやパンフレットが、ターゲットに十分に行き届いていない部分がある。これは誠に本当にそのとおりだと思っています。ただそれのみではなく、本日の事例ですが、私がある区の施設に行くと、文京アカデミア講座のパンフレットが、2018年1月から3月

期のパンフレットがそのまま置いてあります。今、2019年の1月から3月期がもう終わり、次になっていますので、4号前のものが配架されたままになります。確かに周知するのも十分なのですが、常に使うことができる情報を置いていただけるような管理も、お願いすることができればいいと思います。以上です。

細矢課長

今、生涯学習の事例ですが、やはり当然周知、管理は大事になります。区の施設に関しては、私どもから適切に配架し、事業が終われば適切に処分、配架から外すように周知は行っているのですが、より徹底していくことで、管理もより適正に行うようにしていきたいと考えています。

山田会長

全体的な観点、あるいは横断的な視点からの意見、いただければと思います。また第2部の計画全体の点検・評価をも含めた形で、ご意見いただければと思います。

田中副会長

ありがとうございます。

2点ありますが、一つはわれわれの分科会で、最後のほうで盛り上がった話題があったのですが、そちらが載っていませんので、どうしたかと思いました。ふさわしくなければいいのですが、どのように表現すればよいか、区内にいろいろな拠点があり、先ほどの「坂みちアプリ」もありますが、いわゆる生涯学習のための拠点、文化芸術の拠点、スポーツの拠点、観光拠点などいろいろな拠点があります。そちらが一望の下に地図上にあり、半日コース、1日コースと歩くことができるなど、歩くと今度は健康にもいいのでスポーツ分野と絡むなど、そのような横断的施策の中で、いわゆる分厚い冊子を作るのであればまた経費があれですが、インターネット上で配信する、今のアプリのようなものをうまく活用する、他の民間団体が行っているものを全部統合するなど、何か全分野にまたがるような形で、区民の活動を所管するような総合的な、見て、楽しんで、体験することができるようなものがあればいいのではないかとこの話が、確か出ましたよね。それがこちらに位置付けていければいいと思っていたのですが、情報の発信、収集・発信のところに位置付けることもできると思います。何らかの形でできればいいのではないかと思います。そちらが1点です。

2点目は、今の関委員とほとんど重複しますが、この間、メールで事務局には出したのですが、各分野で、やはり障害者、外国人、そちらを含めて分野ごとに不利益になりやすい方々がいると思います。そのような方々に対する活動の支援のようなものは、分野にかかわらず、全分野に共通のものだと思いますので、そのようなものを入れればいいのではないかとメールで送りました。ただこちらは課題が事前に決められている

課題で、そちらに入らないために出ていないのかもしれませんが、もし今からでも追加することができるのであれば、せっかく関委員も言っていただいたので、そのような不利益層のような方々については、全分野共通の課題として、できるだけサポートしていくような、そのようなものも入っているのではないかと思います。以上です。

細矢課長 今、2点ありましたが、1点目については、生涯学習分野の分科会の横断的施策で出て、議論をいただきました。確かにいろいろと意見をいただいています。横断的施策の情報・共有・発信のところで、今、先生からもありましたが、ぜひこちらは加筆をしていきたいと考えています。また、2点目については、確かに3つの視点からの評価になりますので、外国人等について、どのような形で記載することができるのかについて、事務局にて検討させていただきたいと思います。

山田会長 他にご意見、いかがですか。まだ議題にはありますが、もうひとかたご意見いただければと思います。いかがですか。ないようであれば、時間の都合もありますので、点検・評価に関する意見は、こちらで終了させていただきます。点検・評価に関する今後の流れについては、事務局から説明をお願いします。

細矢課長 議論、ありがとうございました。この時間の中でまだ言えなかったこと、また気が付いたことがありましたら、明日、21日火曜日までに事務局にメール、またはFAXで送っていただきたいと思います。本日もいただいた意見、追加で委員からいただいた意見を反映させて、修正したものを、これから区の内部の会議体であるアカデミー推進本部に報告し、アカデミー推進計画点検・評価として決定したいと思います。決定後、委員の皆さまに送付をさせていただく予定です。

山田会長 何かご意見、それで次にまいります。続いて、議題2「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の結果について」です。説明は、事務局よりお願いします。

(2) 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査の結果について

細矢課長 それではだいぶ時間もなくなってきましたので、端的に説明したいと思います。本日本配布した資料2、資料2-1、資料2-2です。まず資料2、1枚ものです。調査目的、1番、2番、3番については、ご覧のとおりです。4番の配布・回収です。区民向け調査については、2,000件配布し、有効回答数が750件、37.5パーセントです。郵送回収が650件、インターネット回答が100件、今回初めてインターネットでの回答を行いました。事業参加者向け調査については、5分野の区的事

業に関してお願いしたところ、有効回答数が 150 件でした。前回は区民向けについては、915 件、46.4 パーセントですので、165 件、8.9 パーセントの減となっています。しかし前々回 10 年前は 691 件、34.6 パーセント、いずれも 2,000 件お願いしたところですが、回収率としては、10 年前が 691 件、34.6 パーセントでしたので、10 年前と比較すると、61 件、2.9 パーセントの増となり、それほど低くはないのではないかとこのところでは。

続いて資料 2-1、概要版ですが、こちらで説明を行います。1 ページ目を開いてください。概要版 1 ページです。スポーツに関する項目についてです。スポーツを「する」ことについて、(1)ですが、過去 1 年間、ウォーキングが 66.1 パーセント高く、実施しなかった方は 10.8 パーセント、週 1 日スポーツをする方のいわゆるスポーツ実施率は 54.9 パーセントになっています。(6)区が力を入れるべき取り組みの視点で、18 の選択肢のうち、ひとりでも取り組みやすくする、51.6 パーセントで一番高くなっています。

次に 3 ページです。文化芸術の項目です。こちらは文化芸術を鑑賞することについて、過去 1 年間に鑑賞した文化芸術は、美術が 50.1 パーセントで一番高く、しなかった方は 17.6 パーセントです。過去 1 年間で、文化芸術を鑑賞した人の割合は、81.2 パーセントで、国、都に比べて高くなっています。(6)区が力を入れる取り組みについては、16 の選択肢のうち、気軽に親しみやすい場づくり 58.7 パーセントと、一番高くなっています。

次に 5 ページです。学習活動についての項目です。学習活動については、過去 1 年間の学習活動で学んだ分野では、教養が 26.8 パーセントと一番高く、学ばなかった方は、31.1 パーセントでした。過去 1 年間で学んだことのある人の割合は、67.2 パーセント、国の調査に比べて高くなっています。(6)区が力を入れるべき取り組みの視点については、17 の選択肢のうち、初めてでも取り組みやすくする、58.8 パーセント、一番高くなっています。

次に 7 ページです。観光に関する項目についてです。観光客が増えることに対する期待については、飲食業や宿泊業等の活性化が一番高くなっています。(3)区が力を入れるべき取り組みについては、10 の選択肢のうち、歴史的建造物や美しいまち並み等の保全・活用・創造が 63.1 パーセントであり、一番高くなっています。

次に 9 ページです。国内・国際交流に関する項目についてです。区内における外国人との交流状況については、交流していない 72.9 パーセント

と一番高く、あいさつ程度が 13.2 パーセントでした。交流のある人の割合は、25.2 パーセントと前回調査より低くなっています。区が外国人との交流の推進に向けて力を入れるべき取り組みとしては、11 の選択肢のうち、区発信の情報を、外国人に分かりやすく提供する 55.2 パーセントが一番高くなっています。(5)国内交流事業参加状況については、参加したことがない 83.1 パーセントと一番高く、物産展が 11.2 パーセントでした。(6)区が国内交流の促進に向けて力を入れる取り組みについては 9 の選択肢のうち、物産展の開催 48.9 パーセントが一番高くなっています。

次に 11 ページです。横断的施策の項目、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、情報の収集・共有・発信、協働する人材の育成としてのボランティア活動について載せています。(5)(6)では、各分野の施策が個人や地域にもたらす効果について、区民の考えが一番高い項目をそれぞれ記載しています。

次に 13 ページです。7、分野別の関心・行動の度合いに視点を置いた分析について、ここではスポーツ、文化芸術、学習活動について、関心・行動の度合いに着目し、関心・行動の度合い別による特徴を捉えた上での分析を行っています。まとめたものを 14 ページから 16 ページに記載しています。では各分野の関心・行動の度合いについては、3つのカテゴリーに分けて、その定義は 13 ページの表のとおりです。

最後に 17 ページです。分野別目標の評価の分析ですが、ここでは 5 分野における分野別目標の満足度と重要度に着目し、2つの視点で各分野に対する区民の評価を確認しています。分野別目標における満足度と重要度は、満足でない、需要でないから、満足である、重要であるまで 4 段階の選択肢で尋ねており、1 から 4 点の配点をして、各分野別目標が満足度、重要度の平均値を算出しています。その数値は表のとおりです。

18 ページの分析(2)(3)は、先ほどの推進計画の点検・評価において、第 2 章計画全体の点検・評価で説明した内容となっています。

しかし、18 ページの実態調査のところの(2)分野別目標における満足度と重要度を組み合わせた分析について、こちらが 4 点、スポーツ、学習活動、国内・国際交流を合わせて 4 点の満足度と重要度の組み合わせで、重要度は高く、満足度は低い分野別目標の数が載っています。先ほどの推進計画の点検・評価では、こちらがスポーツ 1 つ、国内・国際交流 1 つで、数が異なっています。その理由は、点検・評価と実態調査報告書では分析する範囲が異なっていることによるものです。点検・評価は、分野ごとに事業実施状況の評価を行っているため、分野単位で分析を行

っています。そのため分野の目標の満足度、重要度の相対的な位置取りで、優先課題エリアにするものが決まっています。

一方、実態調査報告書については、計画全体、計画改定のために行っており、計画全体で分析を行う必要があると考え、全ての分野別目標を一体にして分析しています。両者は趣旨が異なることから、点検・評価について、必ずしも実態調査報告書と一致しなくてもよいと考えていますが、誤解を生じることがありますので、分かりやすい記載に努めていきたいと考えています。

最後に、今回まとめた調査については、来年度の計画策定を検討していく際、特に分科会でこちらの調査については利用していきたいと考えていますので、その際は、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上、長くなりましたが説明は以上です。

山田会長

既に予定の時間を過ぎていますので、だいぶ駆け足で説明をしました。ただ今の説明で、何か質問はありませんか。

田中副会長

2点だけ教えてください。今の説明の17ページ、18ページです。まず17ページのほうの国内・国際交流の最後、外国人が快適に過ごせる環境をつくること、これが分厚いほうの報告書を見ると、全サンプルを範囲として集計しているようですが、日本人から見て、外国人がどうこうというのは、もちろん重要ですが、外国人の方そのものがどのようになっているのか、サンプルになかなか入っていないかもしれないので難しいと思うのですが、特に、先ほどの資料1の最後のほうに、国際交流分野の点検・評価があり、これが分野別目標2に当たります。重要度が低いけど、満足度が高いとなっています。この満足度が高い人のほとんどは日本人なので、少し対象とする人とずれているので、少し表現の仕方を考えればいいのではないかというのが一つです。

もう一つは、今の課長の説明の中にあつたのかもしれませんが、よく理解できませんでしたので、確認したいのですが、今の説明の18ページの中の学習活動については、いつでも、どこでも、という目標の1が、重要度が高いけど満足度が低いと書かれていますが、先ほどの資料1のほうの50ページでは、分野別目標1は、重要度も満足度も高いとなっています。分かりにくいのは、これはまさに今、説明のあつたのとの絡みですか。表現方法を工夫していただけるとありがたいと思ひます。以上です。

細矢課長

今、2点、意見をいただきました。いずれにしても説明には工夫をしていきたいと考えています。特に2点目のずれについては、丁寧な説明をしていきたいと考えています。以上です。

山田会長
今井委員

他に質問は。どうぞ。

区民の今井です。分からないところがありますので教えていただきたいのですが、事業参加者向け調査の母数が分かりません。幅広い、不特定多数に配布しているために、回答数の掲載は翌年度には書いてありますが、このような理由で、母数を拾うことができないのではないかと推測できますが、例えば配布枚数などからでも推計できるのではないかと思いました。そちらを教えていただけますか。即答が難しければ、そのようなところがなければ、こちらの分析のときに、事業参加者の満足度が高いので、うまくできているようなまとめがあったと思います。母数が分からなければ、どの程度の割合で満足度が出ているのか分かりませんので、もし分かれば、こちらの資料に反映していただければと思います。

細矢課長

配った枚数としては、生涯学習はかなり講座がありますので、そのような偏りもありますが、全部で6,500枚程度配っています。その中での150件になります。確かにこちらに母数が書いてありませんでした。その辺は加筆をしていきたいと思っています。ありがとうございました。

山田会長
片貝委員

だいぶ時間もたってしまいましたが、いかがですか。

どうしても一言申し上げたかったのは、吉永小百合さんは、皆さまもなたもご存じだと思います。大女優です。吉永小百合さんは、講演など絶対に引き受けない方なのです。私は実はテレビ業界出身で、生涯学習関係で、いろいろなテレビ業界の人、映画界の人は来ていただいています。推進課でも、プレオリンピックのイベントで、日本テレビのスポーツ局長さんに来ていただき、映画界では映画字幕の戸田奈津子さん、カンヌでグランプリを取った是枝監督、昨年の暮れは、倉本聰さんに来ていただき講演をしていただいています。私はそのような関係で、吉永小百合さんに非常にアタックしているのですが、絶対に駄目なのです。なぜ駄目なのか分かるのは、彼女の旦那さんはよく知っているのですが、旦那さんに頼むからとお願いしているのですが、どうしても駄目です。ところがその吉永さんを、10年以上前に文京区に招いた方がいます。こちらにいる細矢課長です。細矢さん、伺ったところによると、1通の手紙を吉永さんに出して、その手紙を読んで感動した吉永さんが、文京区に来て、講演をしてくださったようです。私もその話を聞いて感動しました。細矢課長、大変尊敬しています。大変な方です。ここまでは前段です。これから私が申し上げたいのは、税金の使い方です。これは私も少なからぬ特別区民税を払ってきた立場として、どうしても看過できないところは、この推進協議会の議論を通して初めて知ったのですが、最初の資料の7ページをご覧ください。文京バックアップズの活用とあります。

こちらに書いてあります。『経費に対して実績が伸びていない』その実績は、右のページの上のほうに数字が書いてあります。ウェブサイトを開設したのは、昨年3月、情報や大学生を決めたのがわずか11名、この協議会の議論の中で、サイトに800万円かけたと聞いて、驚きました。この費用対効果は、民間では考えられません。ですので、ぜひお願いしたいのは、広報が大変など、いろいろと反省材料はあると思います。これは細矢課長の考えではないのではないかと考えています。賢明な細矢課長は、このようなことは行わないのではないかと、多分、上のほうから押し付けられたのではないかとこの考えも持つほどのことです。ですので、こちらの調査もそうなのですが、安易に業者発注しないでください。多分こちらも、何百万円かかっていると思います。このような分厚い資料を作っているのです。ですので、税金の使い方は、ぜひよく考えていただきたいです。費用対効果をぜひよろしくお願いします。以上です。

細矢課長

大変耳の痛いお話を最後いただきました。当然、費用対効果については、常に考えていかなければいけないことですので、文京バックアップーズについても、見直しも考えています。こちらに限らず、事業に対しては、費用対効果を常に意識して進めていきたいと考えています。

片貝委員

ぜひ。

山田会長

最後に、今後の協議会、分科会について、事務局より説明をお願いします。

(3) その他

細矢課長

それでは今後の協議会、分科会について、報告します。本年度の協議会は、本日が最後です。令和2年度については、アカデミー推進計画のいよいよ改定の年になります。

来年度第1回目の協議会については、4月のゴールデンウィーク前の開催予定です。その後、6月頃から分科会において、分野別計画案について、検討いただきます。また8月から9月頃に協議会を再度開催し、計画案をまとめ、調整の上、令和3年度から令和7年度までのアカデミー推進計画を決定していきます。会議については、協議会を年間で4から5回、分科会は6月から8月、9月頃までに4回、各分科会を4回程度開催する予定です。

ただ今、口頭で簡単にスケジュールの説明を行いましたが、来年度第1回については、4月を予定しています。1回目の日程と来年度のおおよそのスケジュールについては、来月早々には、委員の皆さまにお知らせ

したいと考えています。以上です。

山田会長

主に技術的なことですので、特に質問はないと思いますが、よろしいですか。本日の議題は、以上です。最後に事務局より、事務連絡をお願いします。

細矢課長

熱心なご議論、ありがとうございました。2点連絡をします。

1点目は、本日の会議録については、後日メールで送ります。確認をお願いします。また、先ほどの点検・評価について、何か意見等ありましたら、明日までにファクス、メール等で事務局まで連絡をいただければと思います。

2点目は、文京区アカデミー推進計画の点検・評価とアカデミー推進計画に関する実態調査報告書については、完成版を後日送付させていただきたいと思います。

本年度の協議会は本日で最後となりますが、来年度も引き続きよろしくをお願いします。事務局からは以上です。

3 閉会

山田会長

では、本日の会議を終了します。長い時間、お疲れ様でした。ありがとうございます。

以上